

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

理事会報告・海外ニュース.....	1
うちの会社・お知らせ	2
2002年洋書輸入統計(後編)	3
新・パソコン外論考(其34)	6
出版文化史遺産(77) 洋書の歴史雑記帳[XXXII]...7	

理事会報告

3月27日(木)

1. 以下の正会員2社の3月31日付け退会届を受理した。

海外出版貿易株式会社(1948年入会)

内外交易株式会社(1957年入会)

2. 2003年度予算・総務委員会案を審議し、一部科目及び金額を修正して承認した。

事務改善費及びサイト運用費を統合し、ホーム

ページ関連費とする。

同好会活動費：当初要求額から10%減じる。

懇親会費：参加者拡大を期して若干増額する。

3. 定時総会準備日程を確認した。

4. 新年度活動の柱として幾つかのセミナー・テーマが各理事から提案された。改選役員による新体制のもとで実施を図る。



海外ニュース

◆◆ ISBNの新方式

書籍ビジネスで最も重要な書誌情報システム、International Standard Book Number (ISO 2108)の方式が改訂される。ISBNは30年以上も書誌情報のスタンダードとして認識され、現在では世界160ヶ国で、およそ1億件以上の商品がISBNで個別認識されている。

そのISBNの方式が改訂されることになった。それによると、これまで10桁だったISBNを13桁に増やすこととし、NISOの委員会は2005年1月1日迄に正式な規格を決定する。そして2007年1月1日からは、全世界のISBNの桁数が13に変更される。(まず2005年からバーコードが現在のUPCから13桁のものに移行される。現在のISBNについては、番号の先頭に978を付けて処理するとのこと。)

詳細→ <http://www.niso.org/standards/resources/ISBN.html>

National Information Standards Organization APR, 2003

◆◆ Taylor & Francis 米国でも業績アップ

STM系学術出版社 Taylor & Francisは、BertelsmannSpringer 買収の最有力候補だが、それも停滞ぎみの米国における学術文献市場のなかであって、業績をアップさせていることが要因だろう。2002年の経営利益は16%アップの2,590万ポンド、売上高でも7%アップの1億4,740万ポンドであった。彼らの業績は、米国図書館の予算低迷のなかで達成された数字である。同社は米国スタッフを最小限にとどめ、「利益の少ない分野」の出版は中止するなどして、停滞する市場に対応している。昨年4月C.E.O.に就任したMr.David Smithは、「ポートフォリオでは出版する分野と顧客とのバランスが求められており、我々はいくつかの分野の出版について再検討している」と言う。営業権および特殊要件を除くオペレーティングマージンは、年ベースで22.3%から24.3%に上昇している。

the Bookseller com Informer MAR 21, 2003

日本出版販売株式会社

東京都千代田区神田駿河台 4 - 3

Tel : 03 - 3233 - 1111 Fax : 03 - 3292 - 8521

URL : <http://www.nippan.co.jp/>

<http://www.honya-town.co.jp>

日販は、1949年の創業以来、書籍・雑誌などのメディアの流通を担うリーディングカンパニーとして出版流通の革新を行ってきました。

近年はデジタル技術の急速な進歩と普及に伴い、お客様のニーズが多様化・細分化しており、信頼性の構築と効率化の推進が業界全体の重要課題といえます。こうした中で日販は、迅速かつ確実な物流の追求はもちろん、さまざまな流通情報から店頭の活性化、経営課題や人材育成まで、トータルな視点で書店様を支援しています。

今期2003年度より、日販は「マーケットが求める業界構造改革の実現」という基本方針のもと、新しい中期経営計画をスタートさせました。出版不況という逆境をチャンスと捉え、日販主導でマーケットが求める業界構造改革を実現し、読者に応えていくことを究極の目標としています。

この一環として全社をあげて取り組んでいるのは、単品レベルのマーケット情報を出版社様・書店

様・日販がネットワーク上で共有し、市場ニーズに基づいた生産・流通・販売体制の実現を目指す「www.project（トリプルウィンプロジェクト）」、そして出版取次4社と共同での「返品物流協業化」です。市場データをより有効に活用し、業界三者それぞれにメリットを生み出すSCMの構築を目指します。

一方、日販では社会貢献活動として、長年にわたり読書推進活動を推進しています。1999年10月よりスタートした書店読み聞かせ運動「おはなしマラソン」もその一つであり、3年半余りの活動を経て実施店は200店にのぼり、のべ19,000人の参加者を集める大きな活動へと発展しました。書店店頭を読み聞かせの舞台とすることが集客や販売のチャンスを生み出し、「店頭活性化」へとも繋がっています。日販は今後もあらゆる側面から取引先支援の強化を図り、「お客様と共に繁栄する」企業でありたいと思います。

（日販 経営戦略室広報課）

会員の動き

【退 会】

残念ながら下記の正会員3社が退会されました。

会員名：ブックマン株式会社（1976年入会）

海外出版貿易株式会社（1948年入会）

内外交易株式会社（1957年入会）

退会日：2003年3月31日

告 知

2003年度定時総会

2003年度定時総会は以下のとおり開催されます。

記

日 時：2003年5月16日（金）午後3時45分より

会 場：ホテルサンルート東京

本年は役員改選があります。お繰り合わせご出席ください。

〔事務局〕

2002年(平成14年)1月～12月の洋書輸入統計(後編)

荒 木 亮 一

4. マイクロフィルムの輸入通関統計

表4 2002年までのマイクロフィルム輸入通関額の推移(単位 百万円)

品名	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	前年比	95:01
マイクロフィルム	527	614	551	528	421	431	443	413	93.23%	78.37%

注：写真用のプレート及びフィルムのうち(露光し、かつ、現像したものに限るものとし、映画用フィルムを除く。)
「マイクロフィルム」のみの輸入額である。

<考察>

1999年以降は「下値安定」と言ったところである。一方、文献やデータの整理、検索にも、スピードで優るCD-ROMが急激に増加した。これも時代の流れであらう。

5. “CD-ROM”の輸入通関統計

表5 2002年までのCD-ROM類輸入通関額の推移(単位 百万円)

品名	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	前年比	96:01
(CD-ROM1)	20,355	31,700	27,565	38,283	47,584	53,252	44,424	83%	218%
(CD-ROM2)	～	～	～	5,552	9,948	13,078	16,073	123%	～
計	20,355	31,700	27,565	43,835	57,532	66,330	60,497	91%	297%

注：「レーザー読み出しシステム用のディスク」

音声及び画像以外の記録の再生用のもの(For reproducing phenomena, other than sound or image)

その他のもの(除く：音声のみの再生用のもの)

<考察>

毎年継続して輸入量が増加してきたこの品目であるが、2002年はちょっと足踏み状態になった。しかし、6年前の約3倍を維持している。しかし、輸入された数量(個数)を検索するに、一般向けの商品がかなりの比率を占めている模様で、これらの数値のなかで、教育用、学習用、辞書・事典、ジャーナルなどの比率が如何程かの検索が可能であれば、そのデータをお知らせする必要を感じている。因に、CD-ROM(1)についてみると、全体量に対する比率が、アメリカからは輸入額44%に対し個数では3%、台湾は輸入額の4%に対し個数では60%という。CD-ROM(2)についても、アメリカは輸入額28%に対し個数が3%弱、一方台湾は輸入額22%に対して個数51%となっている。アメリ

カの商品は高額、少量、一方台湾は廉価、大量である。

6. その他の国からの輸入通関統計

表6 国別輸入通関額による順位表(単位 百万円)

国名	国名			2001年実績 書籍・雑誌	2002年は 前年比で	2002年 総合順位	2001年 総合順位
	書籍	新聞・雑誌	合計				
主要10ヶ国の合計	39,253	15,335	54,588	54,990	99%	(1～10)	(1～8&10～11)
台湾	364	69	433	677	64%	11	9
ブラジル	91	339	430	545	79%	12	12
スイス	259	46	305	462	66%	13	13
タイ	229	41	270	208	130%	14	15
スペイン	204	8	212	177	120%	15	16
マレーシア	167	0	167	277	60%	16	14
アイルランド	161	0	161	38	424%	17	26
ベルギー	88	4	92	79	116%	18	19
オーストラリア	65	12	77	58	133%	19	22
ロシア	68	2	70	54	130%	20	23
デンマーク	47	0	47	158	30%	21	17
カナダ	29	16	45	71	63%	22	20
インド	38	3	41	42	98%	23	24
スウェーデン	24	2	26	123	21%	24	18
オーストリア	18	3	21	64	33%	25-1	21
スロバキア	21	0	21	14	150%	25-2	27
インドネシア	18	0	18	39	46%	27	25
北朝鮮	11	0	11	8	138%	28	29
メキシコ	2	0	2	2	100%	29	31
アラブ	2	0	2	11	18%	30	28
小計(1)	1,906	545	2,451	3,107	79%	～	～
その他の国々	84	12	96	272	35%	～	～
小計(2)	1,990	557	2,547	3,379	75%	～	～
合計	41,243	15,892	57,135	58,369	98%	～	～

<考察>

構成比でみると、輸入額の前年比99%を示す主要10ヶ国が96%のシェア(表3参照)を占めているので、11位以降は絶対額で多少見劣りはするが、専門家の需要に対応する出版物もかなり含まれているのではないだろうか。品目別に輸入額をみると、ブラジルよりの雑誌はシンガポール、中国、仏、韓国、イタリアを凌いでいる。南米からの来日者が依然として多いことを示唆しているようである。順調に伸びてきた台湾は書籍で略イタリー並みであるが、その54%が幼児用絵本であることが興味深い。昨年は輸入額が¥123百万(そのうち83%が「単一シートのもの」と1,367%の伸びを示したスウェーデンは、2002年はまとまった企画に恵まれなかったようで、他の国々も残

念なレベルに終わっている。全体としては「一休み」となった2002年である。

7. 為替相場の動向と輸入額への影響

表7 為替相場の動向と輸入額への影響

通貨	2000年の 年間平均 為替相場	2001年の 年間平均 為替相場	2002年の 年間平均 為替相場	前年比 (2002年は 2001年比 - 円安 -)	決済通貨の 推定使用率 (貿易取引データ)	2002年度の 影響度 (VS. 2001)
US\$	¥107.83	¥121.54	¥125.34	3.13%	71%	2.22%
Stg. £	¥165.17	¥175.09	¥187.99	7.37%	2%	0.15%
EURO	¥99.64	¥108.81	¥118.14	8.57%	1%	0.09%
CAN\$	¥73.05	¥78.50	¥79.80	1.66%	1%	0.02%
S.Fr.	¥63.94	¥72.07	¥80.54	11.75%	1%	0.12%
JPN¥	～	～	～	～	24%	0.00%
加重平均	¥101.93	¥111.20	¥118.36	6.44%	100%	2.59%

注：当データは、みずほ銀行から提供していただいた「2002年、月中平均」である。また、併せてお送りいただいた「マーケット・レポート」を参考にした。ここに、ご協力に対し深く感謝申し上げます。

注：為替変動による影響度は「財務省の2000年度貿易取引データ」をベースにした。

<考察>

為替相場は昨年について下降率は少ないものの円安であった。円/USドルでは、円が7～8月に向けて、対1月のレートで11%ほど強くなったが、年末には再び¥122台に3%ほどの円安で終わった。円/ユーロは、ユーロが予想どおりに上昇し、年末には、対1月のレートで約6%高い¥124.29/EUROであった。

注：昨年までは、推定値は輸入先国への支払い通貨は米ドル、英ポンドによるケースが多いと思われたが、各輸入先へ各々当該国通貨を支払い手段としたとの仮定の上に立って試算をした。しかし、2002年は、(前編)で述べたとおり、財務省の2000年貿易取引データによる輸入決済通貨の使用率で考えてみた。勿論、輸入全体の数値であるため、例年の試算同様、誤差のあることをご理解いただきたい。

8. 輸入額と為替相場の前年比をベースにした推定成長率

表8 輸入額と為替変動率をベースに推定した成長率(最近10年の前年比)

年	区分	書籍・雑誌輸入額の 前年比	各国為替相場加重 平均値の前年比	円高/円安調整後の 推定成長率
1993		87.70%	17.00%	4.10%
1994		99.80%	6.60%	6.40%
1995		105.00%	3.40%	8.40%
1996		117.40%	-14.10%	3.30%
1997		109.00%	-8.00%	1.00%
1998		101.00%	-6.07%	-5.07%
1999		90.56%	14.99%	5.50%
2000		101.12%	13.52%	14.64%
2001(a)		117.37%	-6.04%	11.33%
2001(b)		117.37%	-9.44%	7.93%
2002(a)		97.90%	-6.44%	-8.54%
2002(b)		97.90%	-2.59%	-4.69%

注：(a)は為替相場の加算平均値 (b)は貿易取引データによる通貨使用率による。

注：為替相場の前年比は(+)は「円高」を、(-)は「円安」を示す。

<考察>

2002年の「円高/円安調整後の推定成長率」は、従来の方式による加重平均と、上記の試算による平均値による試算を並記した。米ドル決済が多い場合には推定成長率が多少安定しているようにみえる。これらが何を示唆するのか更に考えてみる必要がありそうである。参考までに、2001年に遡った試算も示した。イラク戦争がもたらす世界経済への影響にさらなる関心が向く。

9. 洋書関連品目輸入額統計

表9 洋書関連品目輸入額統計(内訳)表(単位 百万円)

品目	2001 輸入価格	2002 輸入価格	前年比	1990 輸入価格	vs.1990の 成長度
幼児用の絵本及び習字本	2,435	3,142	129%	1,258	250%
楽譜	757	722	95%	913	79%
地図・海図など	252	235	93%	178	132%
地球儀・天体儀	48	39	81%	104	38%
製本したもの	394	418	106%	367	114%
その他のもの	694	692	100%	649	107%
小計	1,179	1,142	97%	843	135%
葉書・印刷したカードなど	1,615	1,994	123%	1,192	167%
紙製又は板紙製	111	144	130%	95	152%
その他のもの	1,726	2,138	124%	1,287	166%
小計	5,724	6,379	111%	3,557	179%
広告・商業用カタログなど	687	1,178	171%	2,900	41%
写真	2,481	2,682	108%	6,456	42%
絵画・デザインなど	19,928	17,679	89%	16,911	105%
その他のもの	28,820	27,918	97%	29,824	94%
小計	189	521	276%	-	-
郵便切手・収入印紙など	869	832	96%	-	-
デカルコマニア	472	199	42%	-	-
設計図	37,141	37,306	100%	34,774	103%
合計					

注：関税上の注記

幼児用の絵本については(前編)参照。

楽譜(印刷したものと及び手書きのものに限るものとし、製本してあるかないか又は挿絵を有するが有しないかを問わない。)

地図、海図その他これに類する図(製本したものの、壁掛け用のもの、地形図及び地球儀、天球儀その他これらに類するものを含むものとし、印刷したものに限る。)および地球儀、天球儀その他これらに類するもの。

葉書(印刷したものと及び挿絵を有するものに限る。)及び個人のあいさつ、伝言又は通知を印刷したカード(挿絵を有するが有しないか又は封筒若しくはトリミング付きであるかないかを問わない。)

カレンダー(カレンダーブロックを含むものとし、印刷したものに限る。)

その他の印刷物(印刷した絵画及び写真を含む。)

および広告、商業用カタログその他これらに類する物品：絵画、デザイン及び写真。

<考察>

「幼児用絵本」は順調な伸びである。前年比でみると輸入額は129%、冊数で109%、平均単価も118%である。2002年のベストセラーズにもう一度目をとおしながら2003年の作品を観察したい。「カレンダー」が伸びている。毎年海外の風景や絵画のなかなか乙なカレンダーがいくつか送られてくるが、広告・宣伝用に海外ものの利用度が高まったのかも知れない。「その他の印刷物」のうち「広告・商業用カタログ」が132%と増加した2001年から更に、111%と増加傾向である。メディアやインターネットによる通信販売が定着してきた結果とも考えられるが。

10. 参考資料（輸出通関統計）～

表10 2002年1～12月輸出通関統計表（単位 百万円）

品 目		01/1～12月 輸出価格	02/1～12月 輸出価格	前年比	構成比
書籍 及び それに 類する もの	単一シートのもの	510	566	111%	3%
	辞典及び事典	187	118	63%	1%
	その他のもの	13,112	12,737	97%	67%
	幼児用絵本	40	28	70%	0%
	小 計（1）	13,849	13,449	97%	71%
	楽譜	112	133	119%	1%
	地図・海図	32	78	244%	0%
新聞・雑誌	小 計（2）	144	211	147%	1%
	週に4回以上発行するもの	13	33	254%	0%
	その他の定期刊行物	4,289	4,278	100%	23%
	小 計（3）	4,302	4,311	100%	23%
	合計（1）+（3）	18,151	17,760	98%	94%
合計（1）+（2）+（3）		18,295	17,971	98%	95%

注：分類、品目の内容については「輸入」と同じ。為替レートについても同様。

11. 参考資料（輸出通関統計）～

表11 10年間の輸出通関額対照表（単位 百万円）

暦年	書籍・辞書・絵本			雑誌・新聞			計		
	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数
1993	23,154	83%	100	4,949	96%	100	28,103	85%	100
1994	20,512	89%	89	5,018	101%	101	25,530	91%	91
1995	18,111	88%	78	4,872	97%	98	22,983	90%	82
1996	18,742	103%	81	4,742	97%	96	23,484	102%	84
1997	17,606	94%	76	4,818	102%	97	22,424	95%	80
1998	17,314	98%	75	4,511	94%	91	21,825	97%	78
1999	15,280	88%	66	4,528	100%	91	19,808	91%	70
2000	14,378	94%	62	4,404	97%	89	18,782	95%	67
2001	13,848	96%	60	4,302	98%	87	18,150	97%	65
2002	13,449	97%	58	4,311	100%	87	17,760	98%	63

12. 輸入と輸出の比率対照表

表12 比率でみた輸入額：輸出額の歴史（書籍類＋雑誌類のみ）

分類	1974	1984	1995	1996	97～98	1999	2000	2001	2002
輸入	76%	49%	65%	68%	71%	72%	73%	76%	76%
輸出	24%	51%	35%	32%	29%	28%	27%	24%	24%

備考：

「輸入対輸出」はまたも30年前、1974年と同率である。沢山の良書が出版されているのに、残念ながら言語のバリアーは乗り越え難い。因に、1970年代と言えば「石油ショック」である。1973年には国際石油資本が日本への原油価格を7～10%値上げすると通告。1974年は、続伸していた経済成長率がマイナス0.5%と落ち込む；OAPEC石油相会議が対米禁輸の解除で合意、石油消費国会議が緊急時の相互石油融通措置で合意、ウォーターゲート事件でニクソン大統領辞任、核持ち込み疑惑と田中退陣要求の最中へフォード大統領がアメリカ現職大統領として初来日、辞書出版の三省堂出版が会社更生法の適用を申請、などなど世情多忙の年である。10年後の1984年には初めて輸出が輸入を1%抜いた。BJE(Books on Japan in English)も大いに貢献していたと思う。その年には米の前年の対日貿易赤字が216億6500万ドルと過去最高と発表され、一方、三菱自工がクライスラーと米で小型車生産を決定、日産がロンドンで英での乗用車生産工場建設の覚え書きに調印、トヨタ自動車も製造業で初めて売上高5兆円を突破、日本上陸14年のマクドナルドが東京・渋谷店で15億個目のハンバーガーを売るなど、好景気の年であった。（丸善：20世紀全記録より）そして今日、日本の、そして世界の景気回復の早からんことを祈るばかりである。

（おわり）

新・パソコン外論考(其34)

宇田川一彦

Sunday in New York / ニューヨークの休日

■子曰、学而不思則罔、思而不学則殆、

The Master said, "If one learns from others but does not think, one will be bewildered, If, on the other hand, one thinks but does not learn from others, one will be in peril."

(論語 / 為政篇・Confucius; The Analects / Book)

【超拙意識；先生が、言われた。「むやみやたらと読書(学ぶ)ばかりして、自分で考えない(思索)と、ぼんやりとして混乱するだけだよ。また逆に、無意味な思索をするばかりで、読書を(学ぶ)しなければ、独断に陥るだけだよ。」】

Internet について (博物館海外編 - New York 3 -)

▲アメリカ・New Yorkでの休日。Hot Picksをいくつかクリアしてきました。まず、高い所でThe Empire State Building (<http://www.esbnyc.com>)に行きました。年中無休、午前0時まで営業、商魂のたくましさ、名所は、この営業時間でいい、と思った次第です。86階の展望台までの入館料は、うーん、10ドル！

百貨店巡りは、以下の3店。永井荷風の「西遊日誌抄」(1906年刊)なかにも登場するMacy's百貨店(<http://www.macys.com>)の木製のエスカレーター(カタカタと音がのどかです)にも乗ってみました。Saks Fifth Avenue (<http://www.saksincorporated.com>)やBloomingdale's (<http://www.bloomingdales.com>)ものぞいてみました。showwindowが、粋なものでした。

Rockefeller Centerのビル街を見て、St. Patrick's Cathedral、ニューヨーク市立図書館(New York Public Library: <http://www.nypl.org>)の主読書室の大きさ(サッカー場程度)に圧倒されました。

Lower Manhattan方面に地下鉄で行きました。地下鉄の車掌がドアを閉めるときに、"Stands! Clear! Closing Doors!"とアナウンスするのを聞き、東京の地下鉄よりはシンプルだなと、感じました。

Lower ManhattanのHot PicksのひとつがGrand Zeroとウォール街のNew York Stock Exchange (<http://www.nyse.com>)でした。ついでに、この金融地区(Financial District)のThe World Financial

Center (<http://www.worldfinancialcenter.com>)、何ともくすんだ色合いが印象的なTrinity Church (<http://www.trinitywallstreet.org/>)とBattery Park (ここから、自由の女神像を眺めるため)に行きました。

▲▲閑話休題。メトロポリタン美術館(<http://www.metmuseum.org>)の次に訪れたのが、現代美術の宝庫と称されるグッゲンハイム美術館(Solomon R. Guggenheim Museum: <http://www.guggenheim.org>)でした。創立者のS. R. Guggenheim(19世紀にスイスからアメリカへ、鉱業で財を成した名門一族・1949年没)が、20世紀を代表する建築家Frank Lloyd Wright(1959年没・旧帝国ホテルの設計者)に依頼、16年後の1959年に完成したものです(ライト氏も没した後に)。

【同館Soho別館は、磯崎新氏により設計改築】

たいへんユニークな形をした建造物です。白い(グレイに近い)螺旋状の6階建てのものです(裏手の横に張り出した増築部分は、タワーといい17階と5階があり、また螺旋状の部分から横に張り出した部分を、タンハウザーいう)。螺旋状の部分をramp(斜面)といいます。このrampは、約3度のスロープになっています。

当美術館の収蔵作品は、シャガール、モジリアニ、レジェ、ブラック、ダリ、カンディンスキー、ミロ、タンギー、ピカソなど多々あります。タンハウザー・コレクションのピカソの「ムーラン・ド・ラ・ギャレット」、女性のコートの赤色は、印象的でした。同館の特長は、カンディンスキー(V. V. Kandinsky)の約200点以上の作品群にあるといえます。

とまれ、rampのスロープを鑑賞しながら降りてきます。ところが、途中で「めまい、頭痛」がしました。抽象絵画は、分からないのが原因か？・・・。

かつて、この「めまい・頭痛」を、経験したことがあります(「阪神・淡路大震災」の際、1週間後に、神戸・御影の友人の安否を尋ねて行き、傾いたビル・家屋を見て、約1時間、街中を歩いたとき)。原因は、「匂い」だと思いましたが、後日、水平に立って、斜のものを見る「目の錯覚」からくる、めまいでした。このグッゲンハイム美術館でのめまいは、逆に水平に展示された作品を、緩やかに3度傾きながら見る「構造上の目の錯覚・水平感覚」が原因だと思います。けっして「抽象絵画の難解さ」からくる「めまい」ではないと...。(以下次号。乞ご期待)

洋書の歴史雑記帳〔XXXII〕キリシタン版の原書(6) 鈴木陽二

天草(3)

『コンテンツスムンヂ』(CONTEMPTVS mundi)も最重要なキリシタン版のひとつである。そもそも、日本に持ち込まれた印刷機で第一番に印刷すべく予定した図書だった。原本は中世キリスト教文学の最高峰といわれるトマス・ア・ケンピスの『キリストの倣ひ』であるが、翻訳には16世紀のフランスの指導的神学者ジャン・シャルリエ・ジェルソンの編纂したものが使われたものと見られており、イエズス会士の通信によると1581(天正9年)には既に翻訳が進められていると報告されている。印刷は1596(慶長元年)に日本語訳ローマ字で行われたが、日本文学中の傑作で、宗教文学の最大の所産と評されている。日本で最も読まれた信心の書で、細川ガラシャも愛読したといい、文章は最終的にガラシャを取り巻く教養人たちによって磨きかけられたのではないかと説く学者もいる。トマス・ア・ケンピスの原書自体は、1556(弘治2年)に輸入されたことが記録に残されており、これがドイツ学術摂取の嚆矢と見られている。天草ではローマ字版印刷と同年の1596(慶長元年)にラテン語版も刊行され、また後述するが、京都では国字版が刊行された。中国でも訳され、当然ながら幕府によって禁書の扱いとされたにもかかわらず流入してきたという。現在オックスフォード大学のボードレイアン図書館とミラノのアンブロシアナ図書館に所蔵されている。

日本で初めて西洋文学が翻訳されたのは、1593(文禄2年)の天草版『エソポのファブラス』(ESOPO NO FABVLAS)だった。イソップ寓話をイエズス会宣教師が編集し、ローマ字で印刷した。元になったテキストは、ラテン語ではなくドイツのシュタインヘーヴェル本ではないかという説もあるが、いずれにしても輸入年代は不明である。訳者は日本人イエズス会イルマン高井コスメとも、また禅坊主から入信した不干斎ハビヤンとも考えられ、宣教師たちの日本語学習と、教訓的な内容を布教に役立てるために刊行したものだった。本書は現在大英図書館に所蔵されているが、それには不干斎ハビヤンが編集した『平家の物語』のローマ字本(1592・文禄元年)と、キリシタン宣教師が選定した日本と中国の格言警句集でローマ字本の『金句集』(1593=文禄2年)が合本となっている。

天草での出版の大きな成果のひとつに、1595(文禄4年)に刊行された『羅葡日対訳辞典』(DICTINARIUM LATINO LUSITANICUM, AC IAPONICUM)があった。8万語に及ぶ大きな辞書で、日本人への教導や自らの宣教活動に必要とされる対訳辞書で、極めて雄大な事業だった。原本はイタリア人アンブロシオ・カレピーノのラテン語辞書で、それに日本語を付ける形で編まれた。編者は天正遣欧使節の一人原マルチノと日向のフランシスコといわれる。こういう辞書は、その時代に日常に使われていた日本語の単語・用法・発音などを知るうえで極めて重要な一次資料になるもので、そういう意味でも、この出版の意味は大きい。

天草の活発な出版活動で刊行された書籍の数は多かったが、上述のほかに特に重要なものをいくつか挙げると、島原で焚刑に処せられたナヴァルロの『告解提要』(“COMPENDIUM MANUALIS MAVARRI” 1597=慶長2年)、スペインの神学者でドミニコ会士ルイス・デ・グラナダの原著でアリストテレスの哲学が日本で初めて紹介された『ヒイデスの導師』(“FIDES NO DŌXI” 1592=文禄元年)、当時ヨーロッパで広く流布していたアルヴァレス原著のラテン語教本に日本語の解説を付した『ラテン文典』(1594=文禄3年)などが天草での出版事業の成果として囑目できる。

牛深から本渡へ戻るバスは、落日の陽光で赤く染まった入江に沿って走る。深く内陸に入り込んだ海は行けども行けども尽きることなく、まるで川を遡っているような錯覚を覚えたものだった。天草の最大の都会本渡市に着いたときには既に暮色が垂れ込めて、天草キリシタン史のシンボル殉教公園の丘は、暮れなずむ大空を背景にして漆黒の姿となって望まれた。天草のキリシタンの史跡を訪ね歩くとき、美しい光景と重なってついエキゾチックな空想に浸り、ロマンチックな気分が昂揚してしまうのだが、しかしそこには悲惨で苛酷な境涯に呻吟した人々の現実があったこと、そして同時にキリシタンが残した高い文化的な偉業を忘れることができない。〔参照文献：井手勝美「キリシタン時代に於ける日本人のキリスト教受容」/J.ラウレス「日本イエズス会刊行書誌」『カトリック大辞典』/上智大学編『日本キリスト教歴史大事典』〕

(元丸善・本の図書館長)

ヒトゲノム解析と関連諸課題を網羅した世界初の総合レファレンスソース

ヒトゲノム百科事典 全5巻

The Nature Encyclopedia of the Human Genome 5 Vols.

Editor-in-Chief: David Cooper

Assistant Editor: Nick Thomas

Section Editor:

Stylianos Antonarakis, Pierre-Alain Binz, Mark Boguski, Angus Clarke, Paul Dear,
Katheleen Gardiner, Irving Gottesman, Michael Krawczak, Wen-Hsiung Li, Wojciech
Makalowski, Gert-Jan van Ommen and Michael Speicher

2003:6.

(ISBN: 0-333-80386-8 / 注文番号 MBN: 0225185)

出版前特価 (2003年6月15日弊社受付分まで) 概価 ¥132,000

ヒトゲノム計画の主要部分が完了したことにより、生物医学は新たな時代を迎え、ヒト遺伝学は社会的、科学的、教育的な関心を集め続けることは確実でしょう。このヒトゲノム百科事典は、ゲノム研究の科学的な基礎と倫理的、哲学的、商業的な関連事項までも対象にした世界初の大規模レファレンスソースとなります。

- 構成語数200万
- 世界中の第一線の権威による1000余の論文項目
- 各項目は500から4000語で記述され利用に便利な複数のサブセット構成
- 豊富な相互参照と索引の完備
- 包括的な表と豊富なイラスト

Coverage

Structural Genomics, Functional Genomics, Evolution and Comparative Genomics, Genome Mapping, Gene Mapping and Sequencing, Chromosome Structure and Function, Genes and Disease, Mathematical and Population Genetics, Proteomics, Bioinformatics, Behavioural and Psychiatric Genetics, Ethical, Legal and Social Issues, Biographies,

(Nature Publishing Group, GBR)

- 表示価格は税別です。
- 原価改定、為替相場の変動等の理由により、価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文は弊社本・支店営業部(課)までお申し付けください。

日本総代理店
M丸善
<http://www.maruzen.co.jp/>

【本社・日本橋店】〒103-8245 東京都中央区日本橋2-3-10 TEL: (03)3272-7211 振替: 00170-5-5

首都圏店 舗=お茶の水・赤坂・新宿・府中・立川・北千住・津田沼・舞浜・柏支店
店舗・営業所=千葉・八王子・さいたま/札幌・盛岡・仙台・新潟・郡山・筑波・横浜・静岡・浜松・名古屋・
岐阜・金沢・京都・大阪・神戸・姫路・岡山・松山・広島・福岡・長崎・鹿児島・沖縄/
ニュージャージー・ロンドン・マレーシア